



誌上体験

社長の決断①

「そのボタンを押してみたら…」

会社で導入したパッケージソフト。いろいろ機能はあるものの、いつも決まった処理にしか使っていない。たまには思いきっていつもと違うボタンを押してみよう。例えば、会計ソフトの場合…。



マンガ：冨田裕詞

経営資料が手に入るのだ。

例えば資金繰り。いかに社員ががんばって仕事をして、資金繰りに失敗すると経営は行き詰まる。経営者なら、状況を早めにつかんでおきたい。ここで味方になるのが会計ソフトである。会計ソフトのベストセラー、弥生会計04プロフェッショナルの場合、日々の取引入力力が済んでいれば、ボタンを一つ押すだけで、詳細な資金繰り計画表が作成できる。これを見て賞与支払い時期の資金が厳しいとわかれば、早めに対策を立て

ることができる。

このほかにも損益分岐点の分析やキャッシュフロー計算書作成など、経営者が「打つ手」を決めるための資料が簡単に手に入る。会計ソフトの多様な機能は決して「おまけ」ではない。フル活用して経営判断に活かしてこそ十分な効果が発揮されるのである。また使ったことのないボタンがあったら是非押してみよう。使いこなすほどにソフトの価格の何倍もの価値を見出せるはずだ。

弥生会計の新バージョン

弥生会計 04シリーズ

弥生会計の新年度版「弥生会計 04」では、さらに使いやすさを追求。より仕事の流れにフィットしたメニュー画面の「クイックナビゲータ」や簿記の初心者でも仕訳入力ができる「簡単取引入力」など、優れた操作性で会計業務をサポートする。

Professional版では、豊富な経営分析機能を搭載し、経営戦略に欠かせない資料をスピード作成できる。

弥生会計 04 Professional 定価80,000円(税別)
弥生会計 04 Standard 定価40,000円(税別)



「簡単取引入力」



お問い合わせ先 弥生株式会社

東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー29F
電話(ナビダイヤル): 0570-001-841
URL: <http://www.yayoi-kk.co.jp/cd/94>

パソコンを活用した業務効率化の第一歩とも言われる会計ソフト。コンピュータは「計算機」だから計算を伴う場面での利用価値は誰もが認めるところだろう。計算機ならばどのソフトを使っても大差なさそうだが、店頭の製品を見ると内容も価格もかなり幅がある。高機能といわれる製品を使うと、何か良いことがあるのだろうか。会計ソフトを使い出すと、社内での帳簿作成作業が迅速かつスムーズになるし、保存されたデータを使う

ことで、毎月の試算表や決算の書類も手間をかけずに作成できる。しかしこうした「効率化」はまだほんの序の口にすぎない。会計ソフトを使う本当のメリットはこの先にあるのだ。 **入力した数字を どう使ったかがカギ** ポイントになるのは、取引を自社で日々入力しているということ。手元の最新の取引データを持っているのだから、これを分析すれば最新の